

# GT Asia Series Rd.1&Rd.2

in

ツインリンクもてぎ



東 徹次郎

TOHJIRO AZUMA

2013.5.11/12

初参戦は豪雨での価値ある3位表彰台！！

Rd.2 はポールポジションからのパーフェクトウィン！！

- ・開催サーキット：ツインリンクもてぎ（4.801km）
- ・チーム：AGE♂AGE♂RACING
- ・マシン：Ferrari 458 Challenge
- ・メンテナンス：東名スポーツ
- ・カーナンバー：#70
- ・クラス：GTM
- ・ドライバー：1st NAORYU 2nd 東 徹次郎



© Naotake Onoda

## 予選（5月11日）

**Rd.1 ◆Weather : 晴れ ◆Course : ドライ**

**Rd.2 ◆Weather : 雨 ◆Course : ハーフウェット**

Rd.1 の予選は昨年の S 耐からのパートナーである NAORYU 選手が走り、自分は Rd.2 の予選を走るという分担になりました。

コースイン直前に小雨が落ちてきた最初の予選、まだまだ路面を濡らすほどではありませんでしたので、各車によってどんどんラップタイムが更新されていきます。

NAORYU 選手も自己ベストを更新し、58 秒台をたたき出してクラス 3 位で、最初の予選を終えます。

決勝で NEW タイヤを使いたいので Rd.2 予選ではタイヤを交換せず、Rd.1 で使ったタイヤで走るという作戦でした。

しかし自分が走る予選になったら、雨足が強くなってきました。

この状況では路面がウェットになってしまうのは時間の問題だったので、自分とはとにかく計測 1 周目からタイムアタックに入ります。

そして計測 2 周目でクラストップタイムへ。

その後、一度クーリングラップを入れて再度アタックに向かいますが路面の濡れ具合がいよいよ多くなってきたのとスピン車両もいたので、ここでアタックを終了しピットへ。

結局この後タイムを抜かれることなく、Rd.2 のポールポジションを獲得しました。

**Rd.1 予選タイム : 1'58.656 総合 13 位 (クラス 3 位)**

**Rd.2 予選タイム : 1'58.327 総合 8 位 (クラス 1 位)**



## Rd.1 決勝 (5月11日)

◆Weather : 雨 ◆Course : ウェット

Rd.1の決勝は予選後からの雨がそのまま降り続き、スタートから雨量も多くなってヘビーウェットでのレースとなりました。

GT Asiaのレギュレーションで予選を走った者がそのレースのスタートドライバーとなる為、Rd.1はNAORYU選手がスタートを担当し、自分が後半を走るという作戦になります。

自分はもちろんこのマシンでの雨の走行は初めてですし、NAORYU選手も同じでした。

激しいウォータースクリーンでほぼ視界はゼロの中、NAORYU選手はアクシデントだけは避けようと慎重にスタートしていき、順位こそ落としてしまうものの無事にオープングラップを迎えています。

そしてすぐに順位を一つ戻して、前について行きながら4位で前半ステントを終えます。

GT Asiaは50分レースで20分から30分の間に一度ピットに入って75秒止まらなければならないというルールがある為、2人で組んでいるチームはここでドライバー交代をします。

うちはピットオープンになって2周目にピットへ戻ってきました。

ここで初めての75秒というルールに慣れていない自分たちは、ピットでロスをしてしまいます。

というのも、メカニック側とドライバー側の両方でタイマーを使って時間を測っているのですが、自分がマシンに付いているタイマーを信じて出ようとしたらピット側からまだ時間が来てないから出るなどの無線が・・・。

ここでドライバー側のタイマーと約5秒のズレがあり、安全を取って5秒経過してからピットアウトしました。

しかし、ピットアウトしてみれば2・3位のポルシェの真後ろで4番手。

自分も雨はこのマシンで初めてですしいきなりレースで前を追う展開なので、まずはブレーキを大事に行って探りながら徐々にペースを掴んでいきます。

マシンも乗りやすくバランスが良かったので、自分の方が前よりペースは速いのですが、とにかくウォータースクリーンで前が見えないのと、たまにかかるハイドロプレーニングで、なかなか抜くことが出来ませんでした。

しかし、高速の4コーナーで合わせて5コーナー進入で遂にポルシェを1台捉えます。

これで表彰台圏内の3位です。

無線でもプッシュとの声が入っていて残り時間も5分程・・・、とにかく毎コーナーステアリングの切り方であったりブレーキであったり、立ち上がりの為にラインを微妙に変えてみたりと試行錯誤しながら前のポルシェを追いかけました。

そしておそらく残り1周との無線が入ったときに、ようやく背後に追いつきます。

自分は3位に上がったときと同様、4コーナーで合わせて5コーナーの入口での追い抜きをイメージしていたのですが、向こうもうまくトラクションをかけていて5コーナーまでに合わせる事が出来ませんでした。

それならと最終コーナー付近が前のポルシェが遅かったので、90度コーナーを抜けてから合わせて最終コーナーでアクションを起こそうと狙っていました。すると今度は最終コーナーで1台スピンしていて、まさかのイエローフラッグ・・・。

それならと最終コーナーでクロスをかけ、チェッカーまでに立ち上がりで抜き去ってやると合わせたのですがあと一歩届かず、非常に悔しい僅か0.1秒差での3位チェッカーとなりました。

### Rd.1 : クラス 3位 (総合 9位)

ベストタイム : 2'09.793



## Rd.2 決勝 (5月12日)

◆Weather : 晴れ ◆Course : ドライ

Rd.2の決勝は素晴らしい好天に恵まれ、気温も上昇して初夏を思わせるほどの天候となりました。

Rd.2の方は自分がスタートを担当し、作戦としては自分が出来る限りピットを遅らせて2位とのギャップを広げ、大量リードにしてから交代という感じでした。

前日のハーフウェットでの予選で、スタート位置はクラスポールで上のクラスのGT3車両の間にも割って入っていましたので、スタートからなるべくGT3車両に食らいついて行き、隙あれば上のクラスのマシンも抜いてやろうと考えていました。

大混戦のスタートは1コーナーの位置取りが本当に重要ですので、GT3クラスのマシンにもそう簡単には引かないぞという自己主張をしながら、オープニングラップを走りました。

最初の数ラップはGT3勢のマシンもそこまでペースが上がらなかったので、自分もこのレースでの自分のファステストラップを、スタート直後のマシンでガソリンが重い状態ではありますが、NEWタイヤでスタートしているメリットを活かして2周目にマークします。

するとクラス2位のマシンとのギャップが早速ついてきたので、安心すると共にバックミラーの視界から消すことを目標にひたすらプッシュです。

しかしその中でも50分レースで、交代するNAORYUさんが走るときに全てが消耗していたらペースが上がらなくなってしまうので、ブレーキと交換しないリアタイヤだけは傷めないよう気をつけて走りました。

最初の2周は1分59秒台、そして残りも2分0秒台ペースを刻み、後ろのポルシェより常に0.5~1秒速いペースを平均して作ることが出来ました。

自分のセッションも後半に入って、変えなくてはならないフロントタイヤがタレてきてアンダーステアで厳しくなってはきましたが、走りを修正してペースが落ちないように努めました。

そしてピットオープンの時間も残り僅かになった14周目にピットへ入ります。

前日の反省も活かし、今回はフロントタイヤの交換があつたにも関わらず完璧なピットワークでNAORYU選手へと交代します。

NAORYU選手がコースに戻ったときは2位とのギャップが20秒はありましたので、作戦は完璧に成功でした。

しかし、やはりレースはドラマがあります。  
88号車のアウディーが、猛烈な追い上げをみせていたのです。  
残り2周で5秒程・・・。  
そしてファイナルラップには、もうワンミスで入れ替わってしまうくらいまで来ていました。  
NAORYU選手もタイヤもブレーキも消耗して乗りにくくなっているマシンを懸命にプッシュします。  
そして自分も祈りながら見守っていた最終コーナー、アウディーが背後に迫るもギリギリ追撃を交わして、嬉しいGT Asia初優勝のチェッカーを受けました。

**Rd.2 : クラス 1位 (総合 8位)**

**ベストタイム : 1'59.412**



## 反省

今回初めての参戦でしたが、自分としては少ない時間でマシンに慣れることが出来て、そして予選もハーフウェットという難しい状況の中で、一発でしっかりとタイムを出せてポールポジションを獲れたことは非常に自信になりました。

Rd.1の決勝は中盤以降のレースペースは悪くありませんでしたが、交代してすぐのときがどうしても初の雨でもありますし探りながらのペースを抑え気味にしてしまっていたので、この辺はちょっと慎重になり過ぎていたかなとは思っています。

Rd.2は自分がスタートでしたが、1周目から2位とのギャップを広げられるよう全力でプッシュしていました。これがうまく出来て交代までに大量のリードを築けたことは、非常に良かったと言えます。また、高い集中力も終始持続出来ていたので、メンタル的にも非常に良かったと思います。



## 最後に

まず、今回 GT Asia のパートナーに選んでくれてチャンスをくれた NAORYU 選手、そしていつもご支援してくださっているスポンサー様に感謝致します。昨年からのパートナーである NAORYU 選手とは、昨年本当に悔しい思いを共にして悔し涙も流してきた仲なので、だからこそお互いわかり合えていて信頼も出来る最高のパートナーです。

この優勝はそんな昨年からの特別な思いがあっただけに本当に嬉しいです。

初参戦で Rd.1 は 3 位表彰台、そして Rd.2 ではポールポジションからの初優勝と本当に良いレースが出来ました。

自分としても最高のパフォーマンスを発揮出来たと思いますし、次に繋がる大きな経験になりました。

チームも完璧なマシンに仕上げられて、今回の結果でより士気も上がっていますし良い雰囲気です。次のレースに繋がっていきそうです。

また、当日たくさんの方々に応援に来て頂き、本当に大きな支えとなりました。皆様、本当に有難うございます。

次回は 7 月 13、14 日の富士スピードウェイになります。

6 月の岡山ラウンドもこの勢いで出たいところではありますが、チームの予算面もありますし、富士に向けてしっかりと体制を作っていく予定です。

どうぞ今後とも御支援御声援の程、宜しくお願い致します。

2013 年 5 月 16 日

東 徹次郎



